

外環千葉県区間の進捗状況をお知らせします

用地取得の状況 (平成20年6月末現在)

国土交通省と東日本高速道路は、外環(千葉県区間)の平成27年度の全線開通に向けて、用地取得を推進しています。平成11年度より本格的に用地買収を進めているところですが、用地取得率(用地全体面積に対する取得済み面積の割合)は、90%付近に達して以降、ここ数年はほとんど伸びていない状況です。

私共では、地権者の方々に協力依頼の手紙を手渡し・郵送させていただき等、交渉を進める努力を積み重ねております。今年度は6月末までの3か月間で11件の用地取得をすることができましたが、昨年度のペースを下回る結果となっています。未取得用地(残件)は232件で、うち計画反対などで調査拒否されている方は依然として46件いらっしゃいます。用地取得率は92%と前回(平成20年3月)と変わらず、頭打ちの状況が続いています。

一方で、市川・松戸地域では慢性的な交通渋滞や交通事故の多発などの厳しい生活環境が続いております。また、これまでに用地を提供して下さった多くの地権者の方々や市民の皆様をはじめ、地元行政や市民団体からは早期開通への強い期待や要望が引き続き寄せられております。

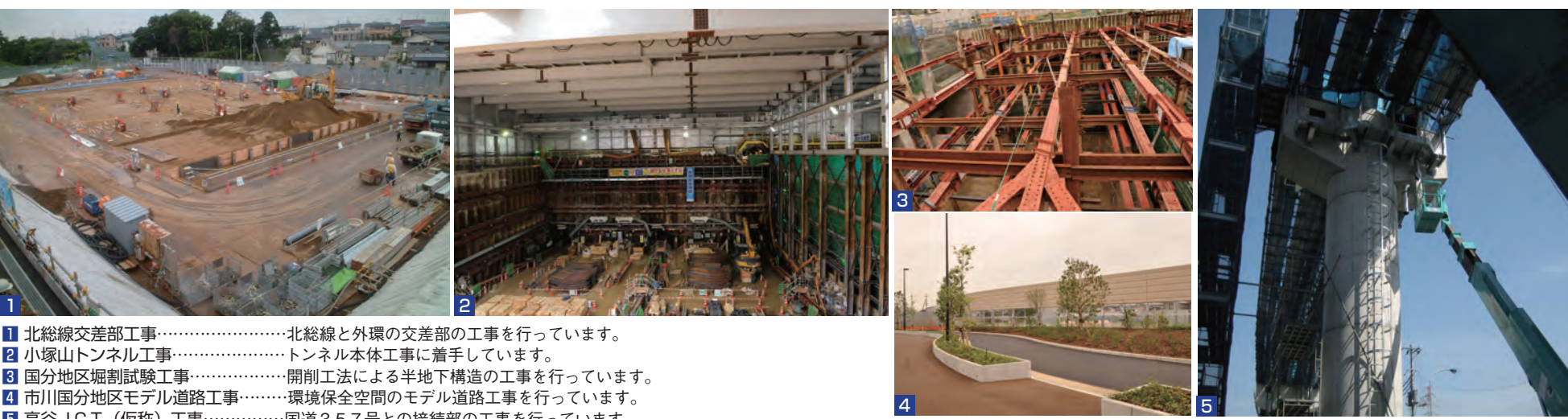
私共といたしましては、平成27年度全線開通に向けて今後も引き続き任意交渉による用地取得に全力を尽くして参ります。また、一部の用地において工事着手までに用地提供のご協力が頂けなかった場合に備えて、任意交渉と並行して事業認定申請に向けた準備を進めています。

地権者の皆様におかれましては、事業進捗に何とぞご理解・ご協力をお願い申し上げます。

用地取得率
約**92%**
(面積ベース)
用地の残件数
あと**232**件



主な工事の状況 (平成20年4月～8月)



- 北総線交差部工事.....北総線と外環の交差部の工事を行っています。
- 小塚山トンネル工事.....トンネル本体工事に着手しています。
- 国分地区掘削試験工事.....開削工法による半地下構造の工事を行っています。
- 市川国分地区モデル道路工事.....環境保全空間のモデル道路工事を行っています。
- 高谷JCT(仮称)工事.....国道357号との接続部の工事を行っています。

外環についてのご相談はこちらまで!

外環相談所

外環の計画、道路の構造、環境対策、用地補償、代替地に関する情報提供など、地域の皆さまのご質問にお応えしています。

毎週月曜日から金曜日および毎月第2日曜日開設(年末年始・祝祭日は休みです)午前9:00～午後5:00まで(午後0:15～午後1:00除く)。
〒272-0824 市川市菅野6-1-9 ☎047-323-0999

最寄駅:京成本線菅野駅から徒歩約8分

外環インフォメーションセンター矢切

外環事業の概要・進捗状況等をお知らせしたり、事業・工事に関する相談窓口として、地域の皆さまのご要望にお応えしています。

毎週月曜日から金曜日および毎月第2日曜日開設(年末年始・祝祭日は休みです)午前9:00～午後5:00まで(午後0:15～午後1:00除く)。
〒271-0095 松戸市中矢切589-15 ☎047-363-3452

最寄駅:北総線矢切駅から徒歩約10分

国土交通省首都国道事務所

〒271-0072 松戸市竹ヶ花86 ☎047-362-4111(代) <http://www.ktr.mlit.go.jp/syuto/>

東日本高速道路(株)千葉工事事務所

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-9-3 ☎043-350-3321(代)



特集
外環は考える、環境について

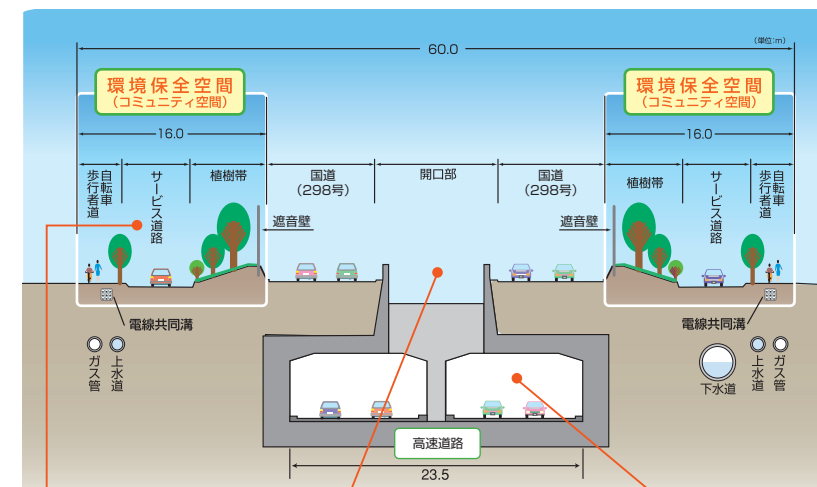
この表紙の写真、どこかわかりますか? 実は、外環の半地下(掘削スリット)構造の中なのです。まだまだ工事中ですが、将来、皆さんの車が通ることとなる場所。今回は、外環の構造のお話から始めて、外環事業での環境に関する取り組みを紹介していきます。

外環は、道路設計も工事も、環境に配慮して進めています

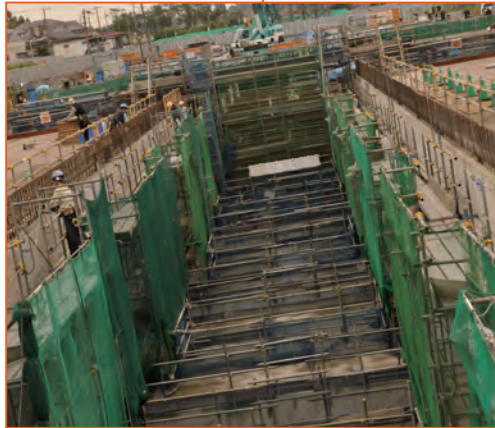
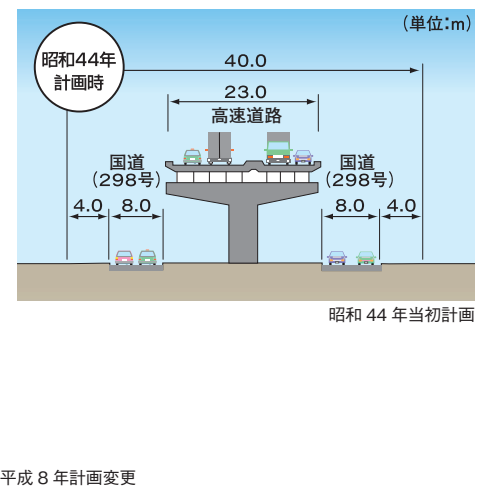
外環が半地下構造になった理由

千葉県区間で外環が当初計画されたのは、昭和44年。当初計画は高架構造でしたが、市街地を通過することから、より環境に配慮した構造への見直しを地域の皆様と協議しながら行いました。その結果、平成8年に外環の構造変更が決定。高架構造だった高速道路を地下へ、国道をその地表へと整備する半地下(掘割スリット)構造とし、その両側に遮音壁や植樹帯、サービス道路(生活用道路)、自転車歩行者道といった「環境保全空間」を整備することになりました。環境保全空間は、沿道に、ゆとりとみどりの空間を生み出します。

■標準断面図(半地下構造)



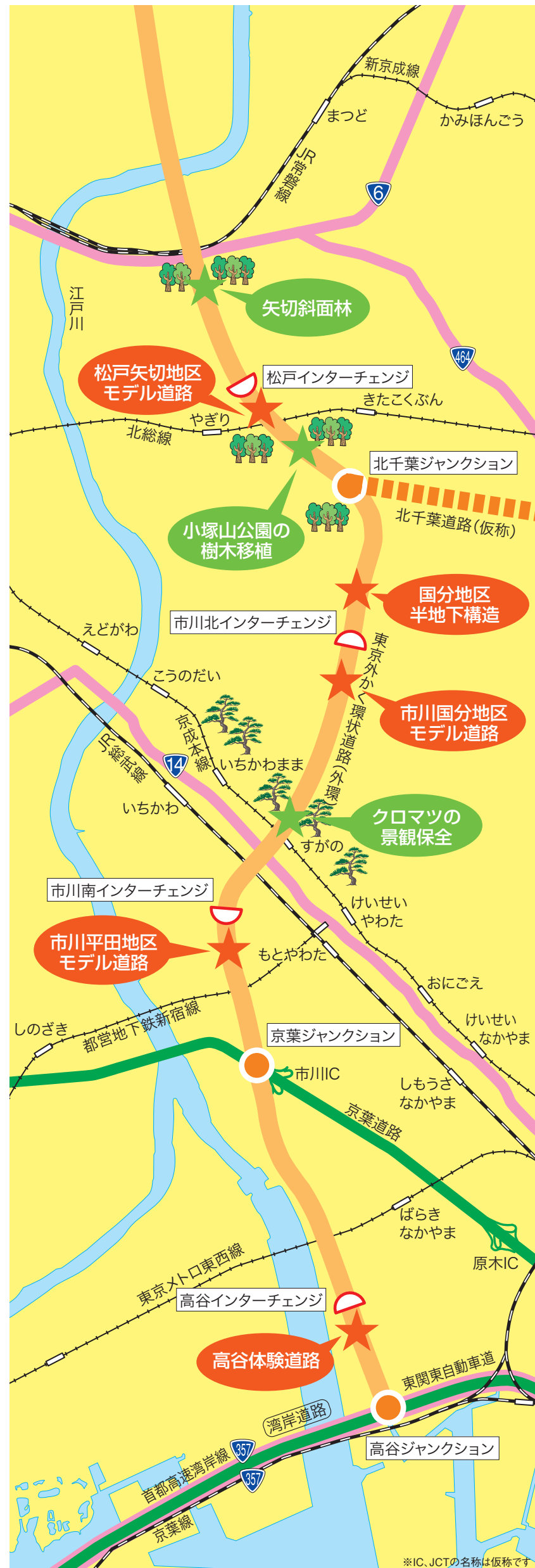
■当初計画案(高架構造)



平成8年の構造変更在先立ち、半地下構造や環境保全空間といった道路構造が周辺環境にどう影響するか、調査検討する「環境影響評価(環境アセスメント)」が千葉県により行われました。環境影響評価では各環境項目ごとに調査、予測、評価及び環境保全のための措置の検討が行われました。その結果、半地下構造や環境保全空間により外環開通後も環境保全目標は達成されると評価されました。



平成17年に完成した松戸矢切地区モデル道路。環境保全空間を体験できるよう先行整備されました。モデル道路はこのほか市川市高谷地区で完成(高谷体験道路)、市川市国分及び平田地区では平成20年度の完成を目指し整備を進めています。



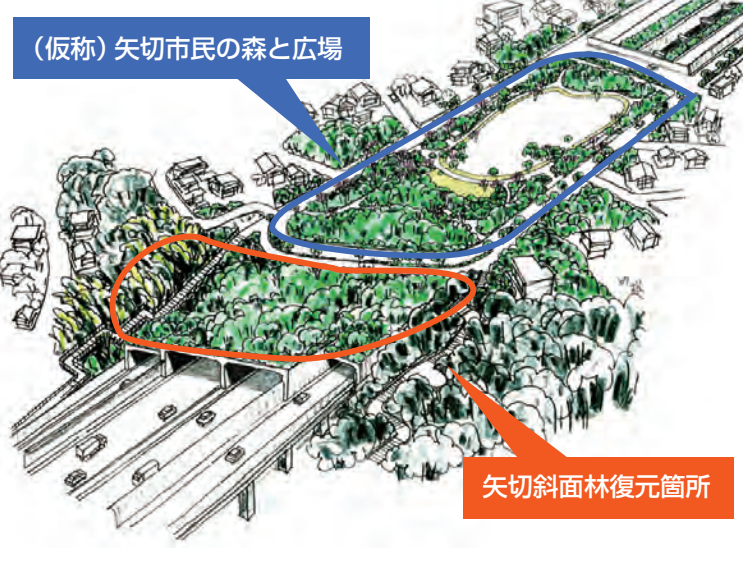
みどりを守り、はぐくむため、こんな取り組みを行っています

●矢切斜面林の復元のために

松戸市矢切地区にある下総台地から低地へと続く連続した斜面。ここには樹木が茂り、矢切斜面林といわれています。外環の完成とともに矢切斜面林の復元を行う計画です。松戸市や地域の皆様とともに復元計画の検討を重ねています。また矢切トンネル上の地上面には新たに地域の皆様が利用できる(仮称)矢切市民の森と広場が松戸市を中心に計画されています。



完成イメージ図



●小塚山公園のみどりを可能な限り変えないために



小塚山の樹木移植では、学識経験者や樹木医等の専門家により適切な移植方法等の検討を行いました。写真は樹木を移植地まで運搬の様子。こんな大きな木の移植もしています。

小塚山公園では公園のみどりをとどめるためトンネル構造で整備を進めています。工事自体も、地表部を掘らないでそのまま樹木を残せるよう、地中作業で行っています。やむを得ず工事の影響を受ける範囲の樹木は、移植地をつくり仮移植を行いました。今後、市川市と協力して復元計画を作り、樹木を公園に戻す予定です。

●クロマツのある景観を保全するために

市川市の代表的な景観で、市川市の木にもなっているクロマツをできるだけ保全するため工事の影響を受ける箇所からの移植を行います。また地域の皆様・子供達により、地元クロマツから得た種から松の苗木を育てる取り組みを行っています。この苗木は将来、外環の植樹帯などへ植えられ、移植されたクロマツとともに、クロマツのある景観を守ります。



日出国小学校では、平成16年に当時3年生だった141名がクロマツの種をまき、2年間育てました。その後、新3年生へと引継がれ今年で2回目の引継ぎを5月26日に行いました。既に若木は60cmにも生長しています。暑さの厳しいこの夏、子供達は各家庭に持ち帰ってお世話しました。植えるのが待ちいです。

工事中も周辺の生活環境に配慮するための取り組みを行っています

工事中の周辺環境への影響を確認するため、騒音、振動の測定を行っています。測定結果は工事現場周辺に設置した「外環のお知らせ」掲示板を使って公表しています。「外環のお知らせ」掲示板は、外環予定地周辺に約40箇所設置されています。また、工事用車両は各地区の工事現場に至るまで外環予定地内に設置された工事用道路を走行することにより、既存の市内道路をできる限り通行しないよう配慮しています。



■千葉県による環境影響評価の結果(主なもの)

騒音	環境保全空間内に遮音壁を設置することで環境保全目標は達成されると評価されました。
振動	環境保全空間(16m)を確保することにより環境保全目標は達成されると評価されました。
大気	植樹帯など幅の広い環境保全空間の確保により環境保全目標は達成されると評価されました。